



二中だより

第8号
令和2年12月2日(水)
拍江市立拍江第二中学校
TEL 03-3480-8891
FAX 03-5497-7362
<http://www.komae.ed.jp/jh/02>

【 学びの保障 】

校長 佐伯 英徳

『新型コロナウイルス感染症対策のために講じられた令和2年3月2日からの臨時休校が子どもたちの心身に与えた計り知れない影響を十分に配慮して、学校生活全般にわたるきめ細かい指導を意図的・計画的・継続的・組織的に行っていく』

上記は令和2年度の教育重点目標と方策の冒頭に追記した今年度の教育活動の指針です。予定していた教育活動がコロナ禍の影響を受けて中止や縮小を迫られる中で、教職員が総力を結集して子どもたちにとっての協働的な学びの場を創造し、その都度見直しを図り実施しています。当分の間、社会全体がコロナとともに生きていかなければならない状況であることは覚悟していますが、感染症対策を講じながら子どもたちの健やかな「学びの保障」を確保することは簡単なことではありません。中学校における「学びの保障」とは、「学力の保障」であり、「活動の保障」、そして「進路の保障」です。

まず、「学力の保障」ですが、臨時休業や分散登校により削減された授業時数をどこまで戻すことができるか、学校行事の中止等により欠時数が減ったことや土曜授業を増やしたことである程度、不足時数を戻しつつあります。その上で、教材等の工夫を図りながら家庭学習での取組を充実させることで授業内容をいかに補充できるかが課題であり、今後、生徒一人1台のタブレット端末の活用も進めていきます。また、授業でのグループワークについては、感染症対策として、対面形式は5分程度として、机の長辺を付けないようにして実施しています。市から配給された机の上に置く「衝立」を活用して国語での集団討論等も実施しました。

「活動の保障」については、1学期から2学期前半までの学校行事等が実施できませんでしたが、10月に入り、規模を縮小した体育祭や、伝統の「学年合唱」以外の舞台発表と展示発表による文化発表会を開催しました。その他、フェイスシールドを装着しての生徒会役員選挙運動やリモートによる立会演説会、ソーシャルディスタンスを保った学年集会等、「できる時に」「できることを」「できる範囲で」活動の場を作ってきています。いずれもこれまでの規模では実施できませんでしたが、目を輝かせて活動する子どもたちの傍で生き生きと準備を進める教職員の姿がありました。

「進路の保障」については、行事準備のために設定していた時間を進路学習にかけることでより丁寧な進路指導を行うことができます。職場体験や上級学校訪問は実施できませんが、自分の特性を知ることや身近な人の話から生き方を考えること等をじっくりと取り組んできています。特に3年生に対しては、志願先の入試の内容を確認し、コロナ禍による変更等を確実に伝達し混乱が生じないよう万全の体制で準備を進めていきます。

新型コロナウイルスの国内感染者が再び急増する中、諸活動の実施に向けた準備を慎重に進めてまいりますので、引き続き、保護者・地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



総合防災訓練がありました!

11月29日(日)に狛江市総合防災訓練が行われました。当日は市内各所で一斉に訓練が実施され、本校でも地域の代表の方や市の職員の方などが多数参加し、役割ごとの動きや物品等の確認を行いました。また、今回は主に新型コロナウイルス感染症対策を考慮した避難所開設訓練だったため、様々な状況を想定しながら訓練が進められました。訓練を通して感じたことは、実際の災害時は多くの避難者が集まることが予想され、避難所運営には、多くの人員が必要になるということです。その中で中学生の力は大いに期待されています。今年は残念ながら感染症拡大防止のため生徒の参加は見合わせましたが、二中生においては防災意識を高く持ち、自分の命を守りながらも、状況に応じて積極的に避難所運営に貢献してほしいと思っています。



生徒会が「緑の募金」を呼びかけ!

先週は生徒会役員と生活委員が登校時に正門に立ち、あいさつ運動とともに役員は「緑の募金」の呼びかけを行いました。ここ数日、朝の空気は冷たくなりましたが、生徒たちの声には熱気があり、呼びかけに応える生徒も多くいたようです。集まった募金は、市役所を通じて寄付され、身近な地域や国内外の「森づくり・人づくり」の活動などに活用されます。

